

令和6年度ひろしま自然保育推進事業 活動報告書

令和7年4月30日

団体所在地 東広島市西条町寺家 261

団体の名称 学校法人難波学園

職・氏名 理事長 難波 元實

施設名 認定こども園さざなみの森

1 活動報告

【4月～6月】(春季)

- ・5月9日 ヨモギ採り
- ・5月10日 春のさざなみの日
- ・5月22日 泥遊び(田んぼの荒搔き)
- ・5月30日 田植え
- ・6月6日 サツマイモの苗植え
- ・6月17日 初夏の自然探検

【7月～9月】(夏季)

- ・9月5日 染め物活動
- ・9月中旬 案山子づくり
- ・9月25日 案山子立て

【10月～12月】(秋季)

- ・10月18日～11月22日 秋の自然探検
- ・10月18日(水) 年長稲刈り
- ・10月24日(木) いもほり
- ・11月12日(火) 龍王山登山
- ・11月16日(土) 秋祭り
- ・11～12月 焼いも

【1月～3月】(冬季)

- ・1月11日 とんど組み
- ・1月15日 もちつき
- ・1月17日 とんど焼き

【4月～6月】

（写真）



（エピソード記述）

・泥遊び（田んぼの荒搔き）

一週間後に田植えを予定している田んぼに水を張り、親子で泥遊びを楽しんだ。はじめは恐るおそる足を踏み入っていた子たちも、半信半疑だった保護者も、一步ずつ田んぼ土を確かめ、泥の感触に親しみを持ち、手を付け、動き出し、泥が跳ねても気にすることなく飛び跳ね、お尻をつけ、全身で、泥と、泥水と、地球と一体化していた。

田んぼの水面にはアメンボが行き交い、水中にはカエルやオタマジャクシが泳ぎ、水底には水棲昆虫やヒルがうごめき、生き物探しに夢中になる親子の姿もあった。親子がココロとカラダでふれあったこの田んぼ土が、私たちの主食であるお米を育て、そのお米を食べる人々を育み、人々の暮らしをつくり、雨や風、太陽や月、植物や動物たち、二十四節気の暦から読みとれる自然との対話を積み重ねてきたことに思いを馳せることができた。

【7月～9月】

（写真）



（エピソード記述）

田植えから3か月、夏が過ぎ秋を迎え、稲穂が実ってきたところで、鳥たちからお米を守るための案山子づくりに取り組んだ。

昨年度の藁を使い、束ね、胴体や腕、顔となるように整え、そこに服を着せたり、顔を描いたり、帽子やマフラー、かばんなどのアイテムも作り、それぞれのお部屋で命名し、パーソナリティをもたせ、『お米の番をよろしくたのむよ』と、田んぼに立てに行った。

『鳥にもおすそ分けすればいいのにね。』という、気前のよい声も聴かれていました。それでも『働かざる者食うべからず』と、自分たちの米づくりの労働の対価、食べ物をつくり出すという営みの尊さをかみしめるがごとく、案山子たちが4体（4名）、田んぼの守り主として、たのもしく勇ましく、立ちは大かっけてくれた。

【10月～12月】

(写真)



(エピソード記述)

子どもたちが「さるさん」と呼び親しんでいる菊間馨さん（広島フィールドミュージアム副代表）。春と秋に2度、『自然探検』と称して一部屋（クラス）ごと、園外のお散歩に出かけている。植物や動物の名前や生態を学ぶということがねらいではないものの、子どもたちが出会い、心に向ける生き物たちや鉱物、現象について、『なぜ？』『どうして？』と抱く疑問・質問に対して、知識や情報ではなく、遊び心や知恵・暮らしとのかかわりについて説き明かしてくださるので、子どもたちの心の中に、それらが沁み込んでいくのがわかる。自然探検が終わった後の日々、何ヵ月も経ったあとで、時には卒園児が久しぶりに園に戻ってきてくれた時に、原体験として残っていることを確認することができる。

【1月～3月】

(写真)



(エピソード記述)

稲刈りが終わった後の広い田んぼを、遊び場とさせていただき贅沢な時間・空間を地域から贈り物としていただいている。

さらには、この田んぼに隣接する竹林から、必要に応じて竹を伐採させていただき、年間を通して、遊具や構造物に活用させていただいている。例えば七夕の笹、柵や支柱、竹で作るコップやバケツ、砂場やままごとの遊具・道具、かご、そうめん流しよろしく水遊びの樋等など、採取しやすく、加工もしやすいので、ありとあらゆるものに転用することができる。竹林はさながら、里山の百均ショップ。生活に必要なものは全部竹林から創り出すことができるといっても過言ではないと感じている。そんな竹林から、とんでも組みあがる。地域や保護者の皆さんとつながり、支えられ、子どもが育つ豊かな環境が与えられていることに感謝。

2 その他（自然体験活動の実施における今年度のプロセス）※記入必須

- ・ 職員の資質向上について

インタープリター（広島フィールドミュージアム副代表：菊間馨氏）を招聘して、園庭の植物や動物、鉱物や水の流れ、陽の当たり具合、生態系、園庭環境について学び直す時をもった。

いつも目にしているはずの植物、これまでのその生態は知っていたはずの動物、見慣れている風景を、あらためて見直し、学びほぐす機会となった。この研修を通して、与えられている環境を保育に生かす視点や、子どもが身近な自然と対話する姿に寄り添う保育者の存在の大切さを再確認することができた。

- ・ 地域との関わりについて

米作りの空間としてだけでなく、農閑期の遊び場としても田んぼを借りることができている

田植えや稲刈り、脱穀の知恵や方法について指導していただく

地域で撮れた新鮮な野菜や山菜を、園の玄関で無料販売所をつくって保護者向けに提供してくださる

- ・ 保護者との関わりについて

田んぼでの泥遊び

田植え

畑づくりと野菜作り

稲刈り

とんど組立て

餅つき

- ・ その他

*より詳しく活動をアピールしたい施設は、ホームページやSNSのURLをご記入ください。

URL	
-----	--